

なんかい

NANKAI

vol. 113

2019.2

南海寮 広報委員会

熊本県天草市本町下河内1685番地の1

TEL 0969-23-3850

FAX 0969-22-4977

Mail keiyukai@cup.ocn.ne.jp

URL <http://www.nankairyu.or.jp/>



年頭所感

変革と挑戦、飛躍の年に

施設長 松浦郁太

昨年は、地震やゲリラ豪雨等の自然災害が相次ぎ、スポーツ界や企業では人災とも言える様々な不祥事が多発した年でした。台風や豪雨災害も想定外の規模で、各地に甚大な被害をもたらしました。熊本地震を経験した事もあり、いつ何処で何が起きてもおおかしくない、備えあれば憂いなしの精神で、日頃より非常用物資の備蓄、訓練等対策を講じておく必要性を感じさせられました。不祥事の原因は様々な理由が指摘されませんが、経営トップの姿勢や倫理観に大きく影響を受けると云われており高レベルの責務を認識し、組織の統治力向上に努めなければと思わされた出来事でした。

当法人では、昨年3月に関係者の皆様のご臨席を頂き、建替工事の落成式を執り行いました。すばらしい建物と環境を得て、更にハードルが上がった事は確かですし、箱物にふさわしい運営をと、その思いを強くすると同時に、関係者の皆様方のご理解とご支援のおかげだと改めて感謝を申し上げます。

今年度は、リニューアルした建物で、新生南海寮の新たな歴史を築くべく、「新化・深化・進化」をスローガンとして掲げ取り組んできま

した。成果が表れたもの、不十分なものの、道半ばのもの等さまざまですが、全体的に意識の向上・変化を感じています。新しい建物をいつまでも綺麗・清潔にと、日々の清掃や花壇管理、環境整備等の取り組みが顕著に散見されますし、ご家族が訪問された際や、お客様からも、「綺麗にされてますね」との言葉も頂いています。施設見学や日中一時、ショートステイの利用も増え、また、人材の確保が厳しい状況の中、就職フェアやハローワーク等を通じ、予想以上の人材確保もできました。新人育成にとどまらず、今後は中堅・ベテラン・管理職にいたるまで、育成強化に取り組み、底上げを図らなければと考えています。

9月にはご家族はもとより、地域の方やボランティアのご協力により総勢350名超の参加を得て、夕涼み会を開催する事ができました。開設当初より開かれた施設を基本に運営してきましたし、今後も地域貢献等にも積極的に取り組み実践につなげる等、機運をさらに昇華させる体制づくり、変革と挑戦を続ける組織づくりに取り組み等、飛躍の年にしていかなければと考えております。その延長として信頼され、地域に必要とされる法人、施設として存在感を発揮していきたいと思っておりますので皆様方のご支援とご協力をお願い申し上げます。

次期報酬改定の在り方と

私たちがやるべきこと

主任支援員 松浦 徳彦

今後の日中活動支援として障がい者の
重度・高齢化への対応、意思決定支援、
社会参加の視点を踏まえた社会生活支援
の3つの取り組みが重要となります。そ
の中で現在、次期報酬改定の検討・検証
として生活介護の「サービスの質を踏ま
えた報酬単価の設定」について国のほう
で議論されており、既に介護保険では通
所介護でアウトカム評価（成果に対する
評価）が導入され、それを障がい部門に
もという議論がなされているようです。
しかし、訓練やりハビリを行ってADL
が維持・向上したなどの評価が仮にでき
たとしても、日中活動で取り組んでいる
事や利用者さんの変化は、一括りに成果
ベースで語る事はできません。

（）の利用者さんの変容とは小さい物、し
かし、社会生活を営む中で、暮らしてい
ける環境を整えられた事などを勘案して
欲しい」とおっしゃっていました。まさ
にその通りだと思います。例えばそれま
で人や環境の変化に対応できず、パニッ
クを起こしていた利用者さんが少しずつ
許容できるようになり、パニックの頻度
が少なくなった、地域に出てシヨッピン
グができるようになった、路線バスの利
用ができるようになった等といったケー
スも多々あると思います。実際、分科会
で社会生活支援の事例をいくつか紹介さ
れました。発表者の方が社会生活をする
為に支援の段階で様々な課題や障壁があ
り、その中で色々なトラブルも発生し、
何度も諦めかけたと話されました。しか
し「一度駄目だったからと諦めない。予
防的支援が必要。地域へ何年もかけて障
害者への理解を促す取り組みをして受け
入れて貰えた」との話が印象的で、最初
から全て上手くいくはずもなく、そこで
どういう支援をしたら上手くいくのか、
地域で暮らしていけるのかを考えること
が私たちの仕事である事を再認識しまし
た。

「常に相手の立場に立つ」

建前ではない本音で言える支援を

支援員 池田 恭輔

福祉施設における虐待のニュース等が
度々報道され、見聞きすることも多く、
福祉施設を利用されている方、家族を施
設に預けられている方々は不安な日々を
過ごされていると感じています。

私は南海寮に入職し1年が経過しまし
たが業務を行う中で不安な点も多くあり
ます。先輩職員の方々のアドバイスやサ
ポートを受けながら日々少しずつではあ
りませんが慣れてきたと思います。しかし
知識・技術面ではまだまだ不足している
部分も多いため、日々の支援の中で先輩
職員に教えて頂くと共に専門書等も活用
しながら知識や技術を身につけたいと思
います。

支援を行うにあたり常に相手の立場に
立った支援を心掛け、虐待を起こさせな
い環境を作る事が大切になり、日常での
言葉遣いや関わり方、支援方法を常に
確認しながら、気付いた時には職員間で
注意を行いながら対応策を考え、実行す

る事が重要になると思います。また、悩
んでいる支援者や利用者に対して、相談
できる環境を作り、悩んでいる事に気付
けることで防ぐ事も多くあると思いまし
た。

虐待とは何かという事を十分理解し把
握しておく事が虐待防止の第一歩となり、
常に支援を振り返り、質の高いサービス
を追及していくことが、虐待防止に結び
ついていくと思います。職員の一人一人
が利用者やその家族の方々と真摯に向き
合い、施設全体で虐待防止に取り組む事
が、今後必要だと今回の研修を通して
改めて感じる事ができました。

利用者さんとの関わりの中で、心や時
間、考えに余裕を持っていればどんな場
面に遭遇しても虐待などにはならないた
め、しっかり自分自身を見つめ直し、ゆ
とりを持って関わっていけるように今回
学んだことを活かしながら業務に当たり
支援の質の向上に繋げていけるように努
めて行きたいと思いました。実際には難
しいと感じる場面もあるかと思いますが
今回学んだことを日々意識していきたい
と思います。

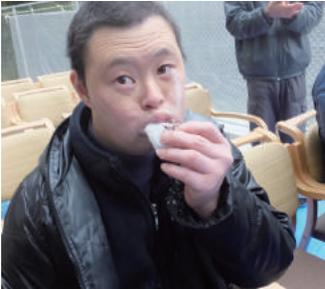
旅行（京都・大阪、天草下田）



なんかいコレクション（ファッション&仮装ショー）



餅つき・忘年会

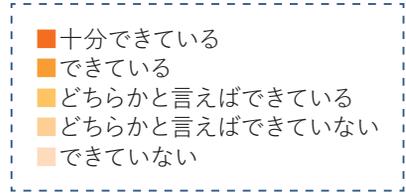


どんどや

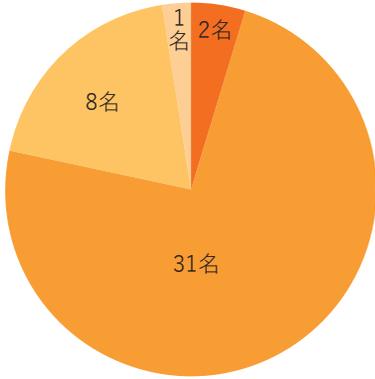


使命達成度アンケート結果

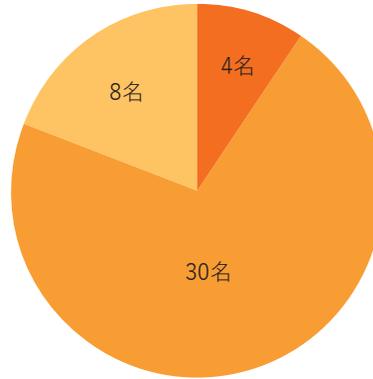
正規職員42名対象／平成30年12月実施



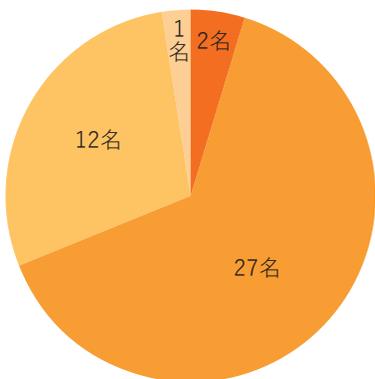
2. 質の高いサービス実践に向けた
努力が、日々、積み重ねられている。



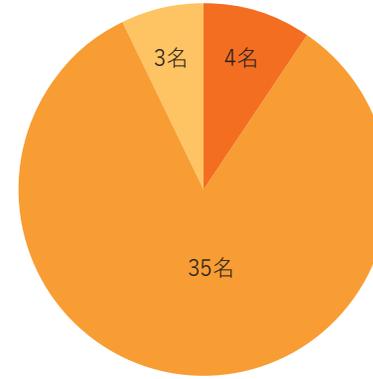
1. 利用者が地域の一員として、地域住民と
接する機会が十分に提供されている。



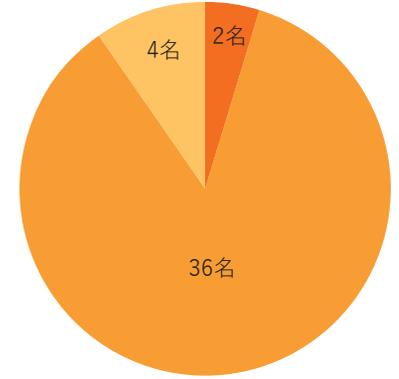
5. 残存能力の維持や存在能力の開発に
向けた適切な支援が提供されている。



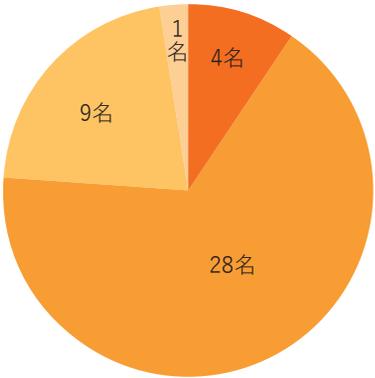
4. 利用者の意思や希望を最大限尊重した
ケアが行われている。



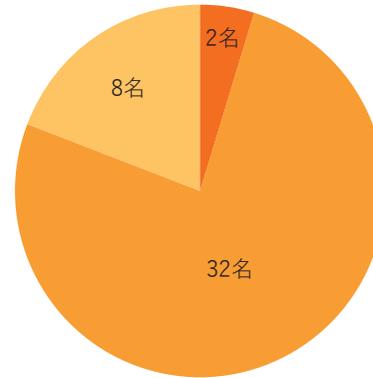
3. 利用者に対して知る権利を保障する
取り組みが十分行われている。



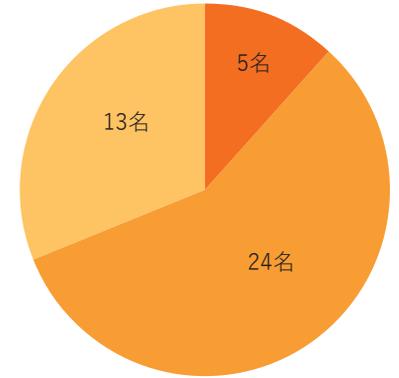
8. 利用者の尊厳を最大限尊重する
サービスが提供されている。



7. プライバシーに配慮した業務が行わ
れている。



6. 意見、要望、苦情が言いやすい(出や
すい)環境をつくり出している。



昨年12月、職員を対象とした同アンケートを実施。このアンケートは、平成26年度より毎年1回実施しており、今年で5回目となります。設問の内容は8つでそれぞれの設問に対して、なぜその回答や評価に至ったのかの理由や根拠も併せて記入するよう実施しております。

アンケート実施後は、結果や意見を等集約し、昨年や一年と比較し、どのような改善が見られたのか、どの部分が是正できていないのか、どうすれば現状の課題を解消できるかなどの検証と検討を職員会議で実施しております。

前年比から多少の改善が見られるものもありますが、とくに評価の良い項目は、例年同じような結果が出ており、できていないとの自覚がありながら、なかなか改善に至っていない現状があります。これらの多くは構造的な問題や意識的な問題などもあり、何かを劇的に変えるぐらいの気概がなければ変えることはできません。毎度の事ですが、会議等で出た意見をどのように実践に反映させていくかが重要であり、また来年の実施時には、少しでも改善が見られるよう取り組んでいきたいと思っております。



通所センターだより

去年の12月8日、送迎車のお別れ会を行いました。「おつかれさまでした」のロゴと一緒に最後の乗車をし、記念撮影を行って、ありがとうの気持ちを伝えました。この送迎車は家族会からの寄贈で、13年と6か月ほど使用させていただき、走行距離は約166700km!なんと地球を4周回っていることとなります。途方もなくてびっくりです!

少しずつ調子が悪くなり、メンテナンスしながら長い間私達を運んでくれた送迎車に感謝の気持ちでいっぱいです。そして新しい送迎車がやってきました。ピカピカの新車です。新しい送迎車を見ているとふと自分と重ねてしまいました。なぜかという私も父親の定年退職と入れ違いで入職したからです。しかし、新しい送迎車はすぐにでも皆を乗せて仕事ができるのに対し、私のほうはこれから使えるようになっていくというのが大きな違いです。逆に、古い送迎車と父親の共通点は「これから使えなくなる(笑)」という点でしょうか。古いほうは良い事ないんじゃないか?いいえ!これまで何人もの人を乗せて走ったので、かなりの思い出が詰まっているはずです。いつもの何気ない送迎の際にドラマティックな事があったかもしれません。新しい送迎車と私はこれから始まるであろう物語の1ページを開いています。今は白紙になっているページですが、皆さん達と一緒にガソリンと思い出を満タンにして運転していきたいと思います。

浦上 寛司

新任職員紹介



小野 理恵
(看護師)



竹崎 栄喜
(支援員)



中尾 豊
(支援員)



立川 啓
(支援員)



秦 小丹
(支援員)



小山 千尋
(支援員)



開田 卯多子
(調理員)



岡田 唯
(清掃員)

南海寮の やさいなえ

野菜苗



4月販売開始予定

- ★ナス(千里長茄子)
- ★ピーマン(エース)
- ★トマト(桃太郎)
- ★ミニトマト(ペペトマト)
- ★カボチャ(エビス)
- ★ウリ(黄色)

- ★キュウリ(長華、南進)
- ★オクラ(丸)
- ★シトウ(葵)
- ★ニガウリ(あばし)
- ★スイカ(大玉、小玉)

各種1本60円

TEL 0969-23-3850/FAX 0969-22-4977

編集後記

寒い日が続くコタツから出るのも一苦労…。そんな日々が続きますが、我が家でもコタツの中で過ごしている時に、息子が持ってきた中学校広報誌をふと眺めていると「松本華英さん法務大臣賞おめでとう」と書いてあり、その作文が掲載されていました。何気なく読んでみると、ダウン症の弟がいて、その弟がいたからこそ学ばせて貰った事、与えて貰った事など書いてありました。また昨今の新出生前診断などにも触れられており、ダウン症がない社会、完璧な人でないという理由で命を奪う社会は恐ろしいとこの時世にも警鐘を鳴らされていました。私自身、読んでいて思わず目頭が熱くなりました。今後もより一層ご家族の強い気持ちやそういった思いなどを私たち職員が支援に繋げて行ける取り組みを行いたいと思います。

高瀬大介

職員研修会等参加報告

- | | |
|-----------------------|--------|
| ■知的障害者施設全国大会山口大会(11月) | 坂本、大中 |
| ■リスクアセスメント研修(11月) | 倉田 |
| ■医療安全危険予知研修(11月) | 中野 |
| ■強度行動障害支援者基礎研修(11月) | 松本昌、藤木 |
| ■発達障害講演会(12月) | 小川明 |
| ■強度行動障害支援者基礎研修(12月) | 小川由、浦上 |
| ■経営協社福改革対応セミナー(12月) | 松浦光 |
| ■OJT推進研修会(12月) | 松下加 |
| ■退職共済事業改正説明会(12月) | 中嶋 |

今後の予定

2月16日 就職フェア FUKUSHI meets!@熊本

2月21日 県知施協職員・家族合同研修会

4月 家族会総会